

農 業

——戦後農業論を中心に——

崎 山 耕 作^{*}

はし が き

農業問題は、明治以降、最も多くの研究が積み重ねられてきた分野であり、文献・資料の量たるや文字通り汗牛充棟である。それは、近代社会になっても農業や農村人口がなお大きな比重を占めていたというためだけでなく、農本主義の土壌の上に構築されていた日本の経済社会の解明のためには農業問題の正しい理解が不可欠だったことにもよる。ことに大正末期以降、日本資本主義論争の中心テーマが地主制の評価であったことから、この論争をめぐって多くの労作がうみだされた。また1955年以降、高度成長経済のなかで農業は衰退し、それにともなってさまざまな問題を提起したが、それなりにまた多くの文献が追加された。

ここでは、わが国の農業・農村問題を対象としたものにかぎって、ことに第2次大戦後発行されたものに重点をおいてとりあげてみることにした。農業問題の研究対象はきわめて広範囲のものであるだけに脱漏のあることをおそれるが、とりえずこれをデッサンとして、補充していきたいと思う。

I. 研究案内

論争点をめぐって研究史的に、あるいはテ

ーマ別に総括したものはそのときどきにに応じて多数公表されているが、日本の農業問題がある程度全面的にとりあつかったものは比較的少ない。そのなかで最も古典的なものは小池基之「農業政策」(一橋大学新聞部編『経済学研究の栞』第2編 経済政策編 春秋社 1950 pp. 77~115)であり、農業経済学・農業政策に関する内外の重要な文献をあげて研究入門を兼ねている。

戦後の研究案内として主要なものにはつぎのようなものがある。

近藤康男編『農業経済研究入門』東京大学出版会 1954 pp. 375

農業経済学を研究しようという若い人々のために編集されたもので、その執筆分担はつぎのようになっている。——農業経済学の基本問題(阪本楠彦)、近代地主制度確立のメカニズム(守田志郎)、農地改革(中江淳一)、日本林業論(笠井恭悦)、階級区分論(山崎春成)、農村人口論(上杉重二郎)、農業技術論(御園喜博)、農産物価格論(暉峻衆三)、農業金融論(村上桃二)、協同組合論(近藤康男)、農業恐慌論(村上保男)、農業危機論(石渡貞雄)、農林統計(丸田宗平)。上記のテーマに対応

* さきやま こうさく 大阪市立大学経済研究所

して、巻末に参考文献が付されている (pp. 337~375)。

近藤康男編『農業理論研究入門』東京大学出版会 1957 pp. 374

「すでに達した高さではなく、これからぜひ達すべき高さを、初歩的な読者にもあきらかに示すような」入門書、「他人の業績を忠実に紹介するよりも、これからわれわれがこんなことをやりたいという抱負を、つまり問題提起を書く」入門書を意図して編集された。

編成はつぎのようになっている。——(1) 独占資本と農業理論の課題 (石渡貞雄)，(2) 土地問題 (中江淳一)，(3) 農村人口論 (梶井功)，(4) 独占資本と農業金融 (早見関雄)，(5) 米価政策 (村上保男)，(6) 農業恐慌 (阪本楠彦)，(7) 戦後における農業政策の諸問題 (山崎春成)。

綿谷起夫・西村甲一編『農業理論の現状と展望』東洋経済新報社1957 pp. 326

「主として昭和30~31年に発表された約250編の著書・論文・報告書を取り上げて、農業経済研究の水準・動向・諸争点を一望のもとにおさめた」もので、「日本農業理論の研究成果に立って、最近の農業問題を浮彫りにし、その研究の見取り図を描こうとしたもの」である。とりあげられているテーマと筆者は、(1) 農業の構造 (石渡貞雄)，(2) 農民の分解 (吉田六順)，(3) 農業の生産力 (桜井豊)，(4) 農業生産力と経営 (金沢夏樹)，(5) 土地改良 (佐藤武夫)，(6) 農業の機械化 (桜井豊)，(7) 農業における近代経済理論 (宍戸寿雄)，(8) 農業における雇用理論 (畑井義隆)，(9) 農産物価格 (宮原幸則)，(10) 農業金融 (井野隆一)，(11) 農業保険 (谷口末広)，(12) 農協問題 (紙谷貢)，(13) 地

方財政 (恒松治治)，(14) 農村指導 (西村甲一) である。

宇野弘蔵・山田勝次郎・近藤康男・山田盛太郎監修『日本農業年報』VI 戦後農業理論の動向 中央公論社 1957 pp. 33~173

本年報第6集の第2部にこの特集テーマがおかれ、以下のテーマと筆者により戦後10年余の農業理論のサーベイがなされている。すなわち、総論 (近藤康男)，農民分解論 (山崎春成)，土地価格論 (上原信博)，山林をめぐる封建制論 (高橋七五三)，農地改革後における農業水利論 (新沢嘉芽統)，農村共同体論 (佐伯尚美)，最近の農協理論 (綿谷起夫)。第3部には「農業理論に関する反省と批判」というタイトルで理論的自己批判を含めて山田勝次郎氏が執筆している。なお巻末に1956年1~12月に公表された主要文献目録と農業理論に関する代表的文献 (併せて16ページ) が収録されている。

近藤康男編『農業経済研究入門 新版』東京大学出版会 1966 pp. 426

前記『入門』より10年余を経て、「経済上の変化やその間の学問的蓄積をできるだけ多くとり入れて、ほとんど各章を新しく書き改めた」もので、面目を一新している。その分担はつぎのとおりであるが、筆者がかかわっていなくても内容は書き改められている。——農業経済学の基本問題 (阪本楠彦・村上保男)，近代農法と地主制 (守田志郎)，農地改革 (中江淳一)，基本法農政 (石渡貞雄)，農業人口論 (梶井功)，農業技術論 (保志恂)，日本林業論 (笠井恭悦)，農民分解論 (山崎春成)，農産物価格論 (曖塚衆三)，農産物市場論 (御園喜

博), 農業金融論 (村上桃二), 協同組合論 (近藤康男), 社会主義農業論 (副島種典), 農林水産統計資料 (丸田宗平)。

初版と同じく詳細な参考文献が付されているが, 新版では手に入れ難くなったものは省き, 新しいものを加え, ことに外国のものを多く補っている (pp. 375~426)。

佐伯尚美「農業」(佐伯尚美他『日本経済研究入門』東京大学出版会 1972 pp. 224~278)

本書は, 全体としての日本経済論をはじめ, 対外関係, 独占資本, 中小企業, 財政, 金融, 労働問題などの研究状況を総括したものである。佐伯氏の論稿は戦後の農業問題について, とくに農民分解論, 農地問題, 農業労働力問題の三つの問題を中心に総括している。

小池基之・常盤政治・平野 絢子・高山隆三「農業経済論——日本資本主義における小農論の展開」(慶広義塾経済学会編『日本における経済学』100年』下巻 日本評論社 1959 pp. 135~236)

明治期よりの小農論に視点をのいた農業問題の研究史である。

II 蔵書目録

『農林省図書目録』農林大臣官房文書課 1928 pp. 939

大正14年4月農林, 商工両省分離後昭和2年12月までの3年間に農林省図書館に収録した図書の日録。これはつぎのように「追録」が発行されている。

追録1 (昭和3年1月~3年10月) pp. 386
" 2 (昭和3年11月~6年10月) pp. 1037
" 3 (昭和6年11月~7年10月) pp. 496

" 4 (昭和7年11月~8年10月) pp. 500
" 5 (昭和8年11月~9年10月) pp. 473
" 6 (昭和9年11月~10年10月) pp. 455
" 7 (昭和10年11月~11年10月) pp. 512
" 8 (昭和11年11月~12年10月) pp. 429
" 9 (昭和12年11月~13年10月) pp. 528
" 10 (昭和13年11月~14年10月) pp. 433
" 11 (昭和14年11月~15年10月) pp. 373
" 12 (昭和15年11月~16年10月) pp. 358
" 13 (昭和16年11月~17年10月) pp. 190

『日本農業文庫目録』農林省図書館 第1巻 産業編 1957年3月 pp. 683

昭和31年農林省に寄贈され「日本農業文庫」として保管されている財団法人日本農業文庫所蔵の蔵書目録。財団法人日本農業文庫は, 昭和17年設立の「農業経済文庫」をその母胎とするもので, 産業組合中央金庫, 帝国農会, 産業組合中央会, 農村更生協会など, 戦前における農業関係中央諸団体の蔵書の一つにまとめて成立したものである。第1巻, 産業論は農林水産業に関する, 主として大正末より第2次大戦時及ぶ図書資料を収録している。

なお, この目録は全3巻で, 第2巻は社会科学その他, 第3巻は洋書, 補遺, 著者名索引となっている。

『農林省図書館蔵書目録』

第1巻 著者名編 1960 qp. 833

第2巻 分類編 1961 qp. 1173

農林省図書館創立20周年の記念事業として編さんされたものである。昭和43年3月現在所蔵の和書約10万冊, 洋書約2万冊(第3巻)を収録している。なお, この目録には農林省が基礎的な行政資料として刊行した資料が網羅されているのに対し, 「日本農業文庫目録」は農業団体刊行物,

雑誌等が中心になっているのが特徴である。

III 書誌・文献目録

農業経済学、農業・農村問題は、その範囲の広さ、研究調査資料の龐大さのため、全体をカバーする文献目録は、対象を日本農業にかぎっても皆無に近い。したがって、期間を限定したもの、一定のテーマないし問題についてのものには以下のようなものがある。

そのときどきに公表された文献については『経済学文献季報』その他の農業に関する部分を利用しうが、戦後の一時期、農林省から文献集が発行されたことがあった。すなわちはじめ農林省農業改良局から、のちに農林経済局、農林水産技術会議事務局などから、何べんか中断をくりかえしつつ1963年頃まで農業経済に関する調査研究の、その期間に公表された文献集を発行してきた。編集主体、採録期間などはたびたび変更されてきたが、『農業経済関係文献集』というタイトルはかわらず、そのかぎり連続性は保たれてきた。また、そのときどき「特集」として問題別に文献目録ないし文献解題が付されてきた。このなかには欠落部分もあり、また1964年以降も発行されていないが、それは農林省図書館編『農林図書資料月報』（農林統計協会発行、1950年より発行、53年まで「農林省図書月報」）、によって補う。

『農業経済関係文献集』

- 昭和13年～23年 農業改良局 1949
- 昭和24年度上半期 農業改良局 1949
- 昭和24年度 農業改良局 1950
- 昭和25年度上半期 付・農業恐慌文献集 農業改良局 1950
- 昭和25年度下半期 特集・食糧問題文献集 農業改良局 1951
- 昭和26年度 農地問題文献集 農業改良局

・統計調査部共編 1952

- 昭和27年度 付・農業水利問題文献集 農林経済局・統計調査部共編 1954
 - 昭和28年度 付・農業経営文献集 農林経済局・統計調査部共編 1955
 - 昭和29・30年 付・農業経済関係雑誌目録 農林省図書館編 農林経済局 1957
 - 昭和34年度上半期 付解題・最近の農民分解除論の動向 農林経済局 1960
 - 昭和34年度下半期 付解題・「県農業白書」について 農林経済局 1960
 - 昭和35年6月～36年1月 付・農業経済関係応用研究の既存研究成果一覧 農林経済局 1961
 - 昭和36年2月～36年9月 付解題・農業基本法制定への道程 農林経済局 1961
 - 昭和36年10～37年3月 付・農業協同組合論および農業共済・農業保険に関する文献解題、農業機械化・畜産・果樹作の経営関係主要研究の解説 農林水産技術会議事務局 1962
 - 昭和37年4月～37年9月 付解題・市場問題に関する文献解題 農林水産技術会議事務局 1962
 - 昭和37年10月～38年3月 付解題・農業構造問題に関する文献解題 農林水産技術会議事務局 1963
 - 昭和38年4月～38年12月 付解題・農業経営問題に関する文献解題 農林水産技術会議事務局 1964
- つぎに、特殊文献目録をあげてみる。
- 農林省図書館編『農林文献解題』
- 昭和30年「米価編」を最初に現在にいたるまで分野別に19冊刊行されている。採録されている範囲は、戦前からのものもあれば最近10年間のものもあり、統一されていない。いずれも第1部序説、第2部文献解題、

第3部文献目録という構成をとって、第1部には研究経過の概要を、第2部には主要な著書論文の解題を付し、利用者の便をはかっている。これまで刊行されているのはつぎの19冊である。

1. 米価編 1955 pp.172
2. 農業協同組合編 1955 pp.200
3. 農村建設編 1957 pp.179

以上までが農林統計協会発行であり、以下日本農業文庫発行となっている。

4. 農業機械編 1958 pp.189
5. 畑作農業編 1959 pp.188
6. 農業共同編 1960 pp.161
7. 農業金融編 1961 pp.157
8. 農業関係共済編 1962 pp.147
9. 酪農経済編 1963 pp.142
10. 園芸経済編 1964 pp.145
11. 農地問題編 1965 pp.141
12. 農業統計編 1966 pp.190
13. 農業水利編 1967 pp.163
14. 草地利用編 1968 pp.186
15. 林業経済編 1969 pp.201
16. 農家人口・労働力編 1970 pp.197
17. 生鮮食料品流通編 1971 pp.152
18. 農林水産公害編 1972 pp.159
19. 農業の装置化とシステム化編 1973 pp.144

〔農地問題・農地改革〕

- 農政調査会 農地制度に関する資料目録 同会 1951
- 農政調査会 農地改革に関する文献目録 同会 1953
- 農林省農業改良局 農業経済関係文献集 第5号 特集 農地問題 文献集 1952
- 農政調査会 小作料及び農地価格に関

する文献目録——戦後の部—— 同会 1956

農林省図書館編 農林文献解題 11 農地問題編 日本農業文庫 1965

〔米・食糧〕

米に関する文献資料(『農村研究』第25号, 1967年6月 pp.2~34)

日本食糧協会 食糧文献解題(米穀篇) 同会 1966 pp.24

日本食糧協会 続・食糧文献解題(米穀篇) 同会 1967 pp.27

日本食糧協会 故荷見安氏著作目録 同会 1970 pp.15

農林省図書館編 農林文献解題 1 米価編 農林統計協会 1955

農林省農業改良局 昭和25年度下半年農業経済関係文献集 第4号 特集・食糧問題文献集 1951

× × ×

大内力編『農村財政文献目録』(農業総研, 文献叢書 No. 1) 1950 pp.210
戦前からの農村財政に関する邦文の著書・論文・資料約4500を収録したもの。

内山政照編著『農業の改良・普及に関する文献・資料・その解説』(農業総研, 文献叢書 No. 2) 1950 pp.176
主として昭和25年3月までに発行された改良・普及に関する文献を、日本だけでなく英米独仏のものまで採録し、その主要なものについて解説、論評を加えてある。

井出ふささ・永原和子編『農村婦人問題文献目録』(農業総研, 文献叢書 No. 3) 1952 pp.76

石関良司編『北海道農業関係文献・資

料目録』(農業総研, 文献叢書 No. 4)
1955 pp. 219

農林省農業総合研究所 『佐賀農業文献
集』 1950 pp. 28

田村盛一編 『山口県農業関係文献集』
農林省農業総合研究所 1953 pp. 71
『都市化と農業に関する文献目録』〔レ
ファレンス文献要目 第12集〕国立国
会図書館調査立法考査局 1969 pp.
89

渡辺善次郎氏の作成によるもので、「都
市化と農業」研究の問題史的素描を簡単
にこころみたと、明治以降昭和44年までの、
この問題に関する邦文の研究論文、調査報
告、若干の新聞の特集連載記事などを採録
している。

武田勉編 『系統農会中央誌記事索引目
録——中央農事報・帝国農会報——』
(農業総研, 文献叢書 No. 5) 1956
pp. 249

武田勉編 『大日本農会報明治期間記事
索引目録』(農業総研, 文献叢書
No. 6) 1959 pp. 336

大日本農会 『大日本農会誌記事索引目
録 (大日本農会報告・大日本農会報
・農業)』同会 1967 pp. 328

藤井知江子編 『明治期農業関係統計書
項目索引目録』(農業総研, 文献叢書
No. 7) 1961 pp. 259

杉山茂編 『東北産業経済文献目録』(農
業総研, 文献叢書 No. 9) 1963
pp. 205

上原信博 「農民層分解に関する文献目
録」〔土地制度史学会編『再生産構造

と農民層分解』御茶の水書房 1961
pp. 199~208

IV 年報, 年鑑

日本農業研究会 『日本農業年報』 第1
輯~第10輯 (1932年上半年~1936年
下半年) 改造社 1932年~1937年

各巻における一般的事情の記述と特集は
つぎのごとくである。

第1輯 1932年上半年 農業恐慌の全面的
展望

第2輯 1932年下半年 植民地農業問題特
輯

第3輯 1933年上半年 米穀問題特輯

第4輯 1933年下半年 蚕糸業問題特輯

第5輯 1934年上半年 農業政策批判

第6輯 1934年下半年 農産物販売統制問
題

第7輯 1935年上半年 農業恐慌五ヶ年

第8輯 1935年下半年 農業租税問題

第9輯 1936年上半年 農業金融問題

第10輯 1936年下半年 農業土地問題

帝国農会 『農業年鑑』 昭和8年~18年
版 1932~43

富民協会 『日本農業年鑑』 昭和7年~
18年 1931~43

農業復興会議 (のち日本農業年鑑刊行
会) 『日本農業年鑑』 家の光協会
1954~

民主主義科学者協会農業部会 『日本
農業年報』 I~VI 月曜書房 1948
~50

『日本農業年報』 I~ 中央公論社
(XI, 1962年より 御茶の水書房)
1954~

1950年、第6集を以て中絶した前記民科編『年報』を継承し、宇野弘蔵、近藤康男、山田勝次郎、山田盛太郎の4氏を監修者として発行された。第11集より編集体制、発行所がかわり、近藤康男氏を編集代表とし、大内力、大島清、石渡貞雄、阪本楠彦氏を加えた5名の編集委員によって構成され、今日に及んでいる。

第2集より第7集まではその年度に公表された主要文献を10ページ余り巻末に掲載していた(第5集では32ページ)。また、第11集より第15集までは、おなじくその年度に公表された主要文献5点(編集委員、幹事のアンケートにより)をえらんで解説と批評を行ない、学界動向を示す試みもあった。

各巻のテーマはつぎのようになっている。

- 第1集 MSA体制下の日本農業 1954.11
- 第2集 国際的にみた食糧問題と漁業 1955
- 第3集 1兆円予算第2年度の農政 1955
- 第4集 豊作の経済学 1956
- 第5集 農民運動の現状と展望 1956
- 第6集 戦後農業理繩の動向 1957
- 第7集 日本農業と農業協同組合 1958
- 第8集 農業技術の新段階 1958

- 第9集 現代日本農業の基本問題 1960
 - 第10集 農業基本問題と基本政策 1961
 - 第11集 構造改善——その意図と現実 1962
 - 第12集 自由化にゆらぐ農村 1963
 - 第13集 食料騰貴——農産物価格はなぜあがるか—— 1964
 - 第14集 変貌する農村 1965
 - 第15集 土地問題——農政の焦点—— 1966
 - 第16集 米作——新しい波—— 1967
 - 第17集 食管制度——構造と機能—— 1968
 - 第18集 現代資本主義と農業——ヴィジョンと現実 1969
 - 第19集 農産物過剰——国独資体制を支えるもの—— 1970
 - 第20集 農基法十年——過剰・不足・公害—— 1971
 - 第21集 三重苦の農村——凶作・不況・自由化—— 1972
 - 第22集 農協25年——総括と展望—— 1973
- 農林省『農業の動向に関する年次報告』(農業白書)1961年度～